仕事の周辺

上野　明子

皆さんこんにちは。この茅ヶ崎市民文化会館は、今ご紹介いただきましたとおり、以前私も文芸学会の委員長をした際、ご挨拶をさせていただいたことがございますので、大変懐かしい思い出深い場所です。どうか最後までお付き合いをいただければとても嬉しく思います。

まずは、私が大学に入ってから現在に至るまでのところを少しお話したいと思います。私は一度四年制の大学に入りました。ところが、それから数ヶ月後母の看病のため大学をやめて帰ることにしました。しばらくして、少こし落ちつくと、父が「もう一回大学を受けたらどうだ」と言い出しました。「それならばもう一度だけトライしてみようか」と、慌ててまた勉強して受け直すことにしたのです。その時、一年遅れになるので、今度は短大を受けて、人よりちょっと早く社会に出よう、そして出来ることなら以前からの夢であったマスコミ方面か国語の教師という夢もあきらめずにむかって行きたいということから、大学選びに入りました。『文芸科』があり、『マスコミコース』があり、そしてさらにその決定打となったのが、もうお辞めになられているのですが、荒牧富美江先生という、初代NHKの女性アナウンサーでいらした先生が、パンフレットに一面で載っていらしたことでした。とても品の良い、白髪の素敵な先生なのですが、そのお写真を拝見して、「是非ともこの大学に入りたい」と強く感じたことを覚えています。

皆さんは私たちの時代よりももっともっと就職が大変になっていらっしゃると思います。もしかしたら未だに悩んでいる方も沢山いらっしゃるかもしれませんが、私のような者でも何とか仕事をしてこれていますので、諦めずに頑張って欲しいなと思います。私の就職活動の時には菊地先生に、マスコミ関係のことで大変お世話になったのですが、沢山の不思議なご縁も重なって、何とか日本テレビの社会情報局というところでお仕事をさせて頂くことになりました。そこで、少しずつ自分の言葉で取材をしたり、様々な壁にぶつかったりしながら、一つ一つとても有意義な経験をさせて頂きました。

特に、「ゆく年くる年」の総合演出をしていた方の秘書業務をさせていただいたことは、大変学ぶことが多かったと思っています。ところがその後、やはり無理がたたってしまったのか、ある時局内で倒れてしまったんです。

ここからはちょっぴり笑い話になるのですが、昔「クイズ／ショーバイショーバイ」という、逸見さんが司会をされていた番組がありまして、Kスタジオという比較的大きなスタジオで収録していました。ある日、そのスタジオの前で、私は知らないうちに倒れてしまっていたらしいのです。そこに番組のゲストとして来られていたジャイアント馬場さんが通りかかって、私を抱え上げてうろうろしていた…。病院に連れて行かれたところ、過労で即入院、それからいろいろありましたが、結局、テレビ局を辞めることになりました。

普通であれば、そこで諦めて帰郷してもおかしくないのですが、私も負けず嫌いでして、もう一度何かしらトライしたいとガンバリました。そこで、親が出した条件というのが、「一部上場企業か全国展開をしている会社に限るということ。それが無理なら帰郷すること」というものでした。慌てたのですが、ある時日本ユニシスの秘書課と、当時の第二電電株式会社が募集をしているのを就職情報誌で見つけて受けると、たまたま運良く二社ともOKを頂いたのですが、その後やはり情報通信、マスコミ関係もしくはコミュニケーションを大事にする会社に行きたいという元々の夢が強くありましたので、第二電電に入ることに決めたわけです。

第二電電で募集があったのは、カスタマサービスセンターと経理。そして情報システムという三部門だけでしたので、その中でならばお客様の生の声を聞くことが出来るところがいいなあと思いカスタマサービスセンターに入りました。一日二〇〇〇件以上の電話が入ります。その中でいろいろな声を聞いているうちに、「ちょっと待てよ、これはおかしいのじゃないかな」という疑問に気づきました。

当時から通信業界は、電話料金を安くするという料金合戦が加熱し始めていたのですが、どこがどれだけ安くて、どのように利用するのが一番ベストなのか。とても複雑で私自身が聞いていても分からないのだから、お客様にご理解頂けるわけがない…。もっと違うサービス提供が必要な時期に来ているのではないだろうか…と思ったのです。そこで私は入社六ヶ月目に六つのサービス案を作って会社に提出しました。会社の方も驚きますよね。何だかよく分からないけれども、とりあえず聞いてみようかということで呼び出されまして、社長、両副社長、担当役員の前でいきなりプレゼンをするということになったんです。いつもはお会いすることもなかった役員の前で突然プレゼンをすることになり、それはもうとても緊張しました。自分なりに一生懸命作ったものだからやってみようと発表した結果、六つの内の二つが実際にサービスとして実現し、残りの四つについては、「電通他と相談をしながらやってみるように」という指示があったのです。

そんな中、また今度は人事経由で当時の所属長に話しがあり、「実は来月、副社長と取締役の秘書として辞令が出る」と聞かされ、また選択かと困っておりますと、それは、企画、広報、宣伝、総務担当役員の秘書であり、各官庁、国会、渉外担当窓口としてとても広く仕事をする環境である。それというのはつまり会社内外全てに広く関係出来るわけで、こんなおもしろい部署はないかもしれない…と思い、二つ返事でお受けすることにしました。

その後、イリジウム事業の立ち上げ、ＰＨＳポケットの立ち上げ、それからＴＵ―ＫＡの事業拡大、併せて合併に向けて大株主とトップシークレットで行なう会合に参加させていただく機会等を得て、非常に有意義な時間を過ごしながら、先日やっとＤＤＩ、ＫＤＤ、ＩＤＯという三社での合併に立会ったわけです。

ところで私の思う秘書業務について、少こしふれたいと思います。役員といっても、例えばトヨタの奥田会長、経団連の平岩名誉会長、アメリカのフォーリー大使や森総理等々なかなかお目にかかることが出来ない方々ばかりですが、ご一緒させて頂いてとても感じるのは、実は皆さんやはり普通の人間なのだということです。とてもすごいオーラをお持ちなのですが、トップゆえの責任や孤独感も抱え、またすさまじい葛藤や悩みともたえず向き合いながら、いろいろな試練に立ち向かわなければならない…。秘書という仕事は、そういう方々の業務のみならず、メンタルな部分でも見えないアシストをするということなのではないかと思っています。

ほんの小さなことで言えば、今日はイライラしているから、チョコレートをつけていってみようかな。熱いお茶よりも、今日は温(ぬる)めで、ちょっと薄目のお茶がいいかな。足元のクーラーを弱目にして、頭がさえ冷たい飲みものをお出しして、少こしでも商談がうまく進むように願かけましょうかな…等と、自己満足にも値するかもしれないのですが、一つ一つ自分なりに役員や相手の気持ちになって考えているのです。

大事なことは、やらされているという感覚ではなくて、自らが誇りを持って、それをやりたいという気持ちの下に、心を込めて行なうことが、仕事をする上でとても大切なことだと私は思います。

ですから、総合職になって今国会を担当させていただき、少こしずつ自分なりにプラスアルファーを心がけています。秘書業務を続けてさせて頂いて、人と人とをつなぐ、通信業界に携わっていることを私は大変幸せに思っています。

通信業界といえば、正にＩＴという言葉が今叫ばれているのですが、このＩＴとはそもそも何のことだか皆さん分かりますか。ＩＴイコール『情報技術』すなはち、インフォメーション・テクノロジー、のことを言います。今正に国家規模でそれが進められているのですが、政治、文化、行政、教育、医療、福祉、防災、さらには娯楽、家庭、に至るまで全ての分野においてＩＴがますます重要視される時代が来ると言われています。

では、ＩＴ革命というのは何かと言いますと、農業革命、産業革命に続く第三の革命と言われていて、これから全てに多大なる影響を及ぼしていくであろう、代表的な革命が位置付けられています。世界規模でいうと、これらを如何に徹底出来たかが世界のパワーバランスを握るであろうとまで言われています。ですから、今森総理他内閣がＩＴ戦略会議に本気で取り組んでいるのは、世界中がこのインフォメーションテクノロジーによる大きな変革に着眼しているからにほかなりません。

今世界のインターネット人口は、二〇〇〇年二月現在、二億七千五百万人に達しています。最も普及している国は北欧になります。日本はまだまだ二一・四％で、世界中では十三位に位置するという状態です。

恐らくその爆発力や、これからの拡大な伸び率について言えば、日本は今まで以上にいくとは思われますが、世界規模で見た場合は

まだまだ二一・四％にすぎないという現状です。

この先最も中心となるであろうモバイル、携帯の部分で言うと、アメリカが一位ですが、次いで日本が二位という数値になっています。ただ、日本は技術力がアメリカよりも勝ると言われています。この日本の様々な技術革新の波とその影響力は、間違いなくもっともっと広がっていくであろうと思われます。

では、家庭の普及率で見た場合に、家庭で一〇％に達しているさまざまな電化製品、これはどういった割合になっているかといいますと、何と電話が一〇％に達するまでに七十六年かかりました。FAXが十九年、携帯や自動車電話が十五年、それに比べてパソコンは十三年で普及し、インターネットに至ってはたったの五年で一〇％に来ました。ですから、今後もそれはどんどん普及していって、IT国家と呼ばれるにふさわしい時代が来るであろうと言われているわけです。森総理やソニーの井出会長他沢山の有識者の皆さんによって行なわれているIT戦略の会議で、今からあと五年の間に日本は世界で一番のIT国家になることを提言しています。今国をあげてそれに向かうために様々な規制改革・撤廃等を始め、より多くの話し合いや実現にむけた取組がなされているわけです。

ただ、このITというのは、良いことばかりではないということも、しっかりと知っておかなければいけないと思います。セキュリティの問題であるとか、プライバシーの問題、あるいは、体が不自由な人や高齢者等、パソコンを使えない方もまだまだ沢山いらっしゃるわけです。それで、どうしても情報量の格差というのが生まれてしまいます。みんなが使える状態としての基盤作りと、より迅速で確かな情報を得るための技術向上、そしてセキュリティ問題もクリア出来る、そういう時代にしていかなくてはいけないということが、今課題として非常に問題視されています。

規制の撤廃と安全性、信頼性を確保しながら、より多くの情報量を的確に伝えていく。その活発化と発展に向けてお手伝いをしていくことが、私達通信業界に携わるものの務めだというふうに考えて日々仕事をさせていただいています。

そういう意味でも、これからまだまだ私達がやっていかなくてはいけない仕事・使命が沢山あると思います。

こうしてここまで自分を振り返ってみると、決して平坦な道ではなかったと思いますが、その都度必ず自分なりの夢を持っていたなぁという気がします。短大の受験の時、小論文の課題というのが三つあった中で、私は「夢と現実」というのを選びました。その時に書いたフレーズを未だに大事にしているのですが、夢は決して逃げない、だから追いかけるのではなく向っていくものだと書きました。自分が追いかけていくのがだんだん鈍ってきたり、恐しくなってくると「夢が逃げちゃった」という言葉を使って、知らず知らず自分を弁護してしまうけれど、本当はいつだってちゃんとそこにあるものだと思うのです。逃げたのではなく、自分がそこまで届かなかったことへの言いわけをしているだけ…。きちっと自分が努力をして向っていけば、そこには手が届く。それを信じてやり続けたか、やり続けられなかったか、それが夢を実現出来たか、出来なかったかの違いになって来るのだと思います。

これから少子高齢化の時代と言われる中で、皆さんにももっと考えて欲しいなと思うことがいくつかあります。

私自身も今非常に興味を持って勉強していることなのですが、環

境問題や、社会福祉のことです。恐らく厚生年金も出なくなるような不安のある時代背景の中で、隣のご老人や近所の小さな子ども達に対しても、思いやりを持って接するような時代でなければ、きっと人と人のコミュニケーションがどんどんなくなっていってしまうと思うのです。若い年代が引き起こす問題が多発している中で、他人事とせずに、優しさと思いやりと同時に、責任や厳しさを持って社会が子供を育て、みんながお互いを守っていく…、そんな心の豊かさと優しさや厳しさが一層求められるのではないでしょうか…。ＩＴによって、人と人とのコミュニケーションは、どんどん少なくなっていってしまい兼ねないということも言われます。インターネットはどことなく寂しいと思う人もやはりいますよね。ですから、それぞれのコミュニケーション用途にいろいろなツールを利用する、これ一つだけというのではなく、時には電話で声を聞かせたり、時にはやっぱり直接会って顔を見せたり、そういうこともずっと大事にしていくべきだと思うのです。

私が総合職になる時に随分考えたり話し合ったりしたことでもあるのですが、男女雇用均等法が叫ばれて、男性も女性も同じ仕事をして、同じ権利を主張するということが多くなってきましたが、本当の意味でそれをしようとしたら、実はちょっと違うのではないかなというのが私の中にはあります。女性は女性なりの感性、男性は男性なりの良さというものを持ち合わせた上で、それを活かした上での仕事、それが本当の意味での男女雇用均等であると考えます。お互いを尊重し受け入れることで、より良い方向を導き出していくことこそが、総合職というイメージなのではないかなと私は思っています。同権であることを主張する前に、自分が自分らしくあること、そして周囲の要求も考えてあげられる余裕を持つこと、そういったことが大切なのではないかと思っています。

最後になりましたが、是非母校の先輩が居る会社なのだということで少しは興味を持って、ＫＤＤＩの仲間入りをしていただけると非常にうれしいなと、ここでアピールもしっかりしていきたいと思います。

どうかいつでも夢を持ってあきらめずに向っていく強さと、思いやりや優しさをもって接する心の豊かさを忘れない女性・人間になっていって下さい。私もまたそれをいつまでも目指し続けてがんばっていきたいと思います。本日は皆さんと一緒の時間が過ごせて、とても嬉しい一日でした。ありがとうございました。

［質疑］

○勝山（一年）　ＩＤＯがどうして急にａｕになったのかということと、ａｕという言葉の意味を教えていただきたいと思います。

○上野　よくぞ聞いてくれましたという感じなのですが、「ａｕ」というのは、「Access」「Always」「Amenity」などのＡと、「Unique」「Universal」「User」などの頭文字Ｕから構成された造語であり、「access to you」の意味ももちます。

ＤＤＩ、ＫＤＤ、ＩＤＯが合併をした時点で新しい統一ブランドの提案をすることで、また新たな領域を切り拓き、より一層コミュニケーションのある生活を提案しようとしたものです。私のイニシャルであったとこも大きな要因であると私は思っていますが…（笑）。

（平成十二年十二月九日　現代文化学会講演より　文責　飯野　守）